



# 職業奉仕について

## 西村 美智子 職業奉仕委員長

本日は、ロータリーの目的や行動規範、四つのテストを確認し、職業奉仕の理念と原点を検証した上で、日本における今日的な職業奉仕のあり方について、考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

### 1. ロータリーの目的・行動規範・四つのテスト

職業奉仕は、ロータリーの目的第2項「職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること」に立脚しています。

2014年には、それ以前の「ロータリーの行動規範」が改編されてより簡潔になりました。第3項において「自分の職業スキルを生かして、若い人々を導き、特別なニーズを抱える人びとを助け、地域社会や世界中の人びとの生活の質を高める」とあり、特に職業奉仕の具体的な行動規範が示されています。

また、同年、職業奉仕の実践指標とされてきた「四つのテスト」がロータリーの基本理念に格上げされました。

これらは、職業奉仕の理念の根幹です。

### 2. 職業奉仕の理念と原点

ロータリーの職業奉仕理念を理解するにあたっては、ロータリーがアーサー・フレデリック・シェルドンから学び、現在に至っていることから、まずはシェルドンの奉仕理念を正しく知ることが、正しく奉仕を理解することに繋がります。

シェルドンは、ミシガン大学の経営学部を卒業した後、自らのセールスマンや出版社の経営者としての成功経験に加え、1902年シカゴにビジネス・スクールを設立して、サービスの理念を中核とした販売学を教えました。そこでは、ロータリーの職業奉仕理念の中核となった”He profits most who serves best”に基づくサービス学の概念を科学として捉えています。

シェルドンは、黄金律として「自分が他人からしてもらいたいことを考えることをまず他人にすること」、商売に成功する方法は「継続的に利益をもたらす顧客を確保すること」を提唱しました。

シェルドンの職業奉仕理念は、継続的な事業の発展を得るためには、自分の儲けを優先するのではなく、自分の職業を通じて社会に貢献するという意図を以て事業を営む、すなわち会社経営を経営学の実践と捉えて、原理原則に基づいた企業経営をすべきであること、そして良好な労働環境を提供するのは資本家の責務と考え、資本家が利益を独占するのではなく、従業員や取引に関係する人たちと適正に利益を再配分することが継続的に利益を得る方法であるというものです。

1911年の全米ロータリークラブ連合会で、シェルドンの理念である”He profits most who serves best”がロータリー宣言の結語として採択されました。

同じ全米ロータリークラブ連合会で採択された、もう一つの理念は”Service not self”でした。自分だけが儲けるのではなく、他人にも恩恵を与えるように取引を拡大すべきということです。これは、1917年頃から”Service above self”に変更されています。

決議23-34においては、「ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕-「超我の奉仕 (Service above self)」の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる (They profit most who serve best)」という実践的な倫理原則に基づくものである」と規定されています。

また、Official directoryにおいて、「奉仕の理想とは、他人のことを思いやり、他人のために役立つとすることである」とされています。

### 3. 日本における今日的な職業奉仕のあり方

日本においては、米国より200年早く、江戸時代から「売り手よし、買い手よし、世間よし」の「三方よし」、「現金掛値なし」の理念に支えられて、日本独自の商業理念を確立してきました。江戸期の商人精神や企業家精神を紐解いてみましょう。

石田梅岩の思想は「実の商人は先も立ち、我も立つことを思うなり」として、営利活動を否定せず、ビジネスの持続的観点から本業の中で社会的責任を果たしていくことを説いており、日本のCSR (Corporate Social Responsibility) の原点として脚光を浴びています。

近江商人は、「三方よし」を行動哲学としています。これは、今日的な課題であるCSRと結び付けて注目されています。世間を現代の経済社会に置き換えると、地球環境、地域社会、コミュニティともいえます。

伊勢商人の最も代表的な存在は三井高利で、「現金掛値なし」等の発想により商売を発展させました。

日本近代資本主義の最高指導者とも称せられる渋沢栄一は、道徳経済合一説や義理両全を打ち出し、仁義の上にたった富の追求、論語と算盤説を唱え、武士道ならぬ実業道 (士魂商才) を唱導しました。

日本における今日的な職業奉仕のあり方を考えるに、ロータリーの目的や行動規範に則り、シェルドンの提唱した職業奉仕理念、日本の商業理念である「三方よし」や「道徳経済合一説」を規範とし、営利活動を成功させながらも、ビジネスの持続的発展の観点から、本業の中で社会的責任を果たしていくことが肝要と思料致します。

閉会点鐘

侯野 幸昭会長

創立/1993年10月13日(平成5年)  
事務局/〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-2-2  
グランドマン九段 906号  
Tel: 03-3288-7300 Fax: 03-3288-7400  
E-mail: ocha-rc@sirius.ocn.ne.jp  
<http://tokyo-orc.jp/>

例会日/毎週水曜日 12:30~13:30  
例会場/ホテルグランドパレス Tel: 03-3264-1111  
会長/侯野 幸昭 幹事/松浦 吉晃  
会報/八木 壮一(委員長) 松島 健(副委員長)  
青木隆幸 西村美智子 大原正道 山田丈夫(委員)